

令和6年度 リハビリテーション連絡協議会 合同勉強会(報告)

今年度は令和6年度策定された「北九州市しあわせ長寿プラン」から北九州市が目指すまちの将来像や重点戦略、また地域リハビリテーションの取組を学ぶことにより、リハビリテーションの立場から自身の業務における課題や具体的活動等を考える機会とする。

またグループワークにて、自身の業務で何ができるか考えるとともに、意見交換を通して自身の立場でできることを共有する意見交換を行った。

- 〔開催日時〕 令和6年11月15日(金) 19:00～20:45
〔開催場所〕 ウェルとばた 多目的ホール
〔テーマ〕 地域包括ケアシステムの深化
～北九州市が目指す姿に対して、自分ができること～
〔参加者数〕 73名※事務局・行政職含む
〔当番区〕 八幡東区
〔実施内容〕

- (1) 各リハビリテーション連絡協議会の活動報告(東部・若松区・八幡東区・八幡西区・戸畑区)
各リハ協より、令和6年度の活動報告や今後の方針等について報告した。

- (2) 【情報共有】(25分)

『北九州市しあわせ長寿プランの概要』 保健福祉局長寿社会対策課 富原係長

『地域リハビリテーションの推進について』 保健福祉局地域リハビリテーション推進課 佐藤係長

- (3) 【グループでの意見交換】(35分)

- 各自ワークシートに記入する(10分)
- 6人程度で12グループ作成し、プランの中で印象に残ったことや事業所の強み等意見交換を行った。



写真①活動報告



写真②講演



写真③意見交換後の発表

令和6年度 リハビリテーション連絡協議会合同勉強会 アンケート結果

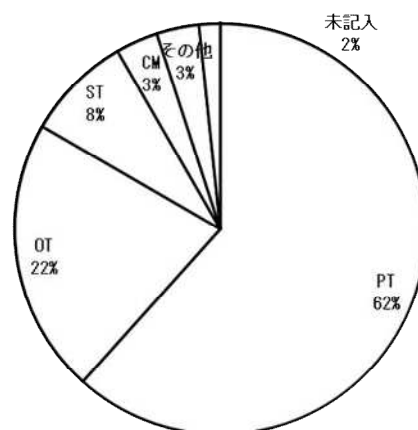
申込者：71名

参加者：71名※行政含む（事務局2名除く）

回答者：60名（回収率：85%）

□ 回答者属性〔職種別〕

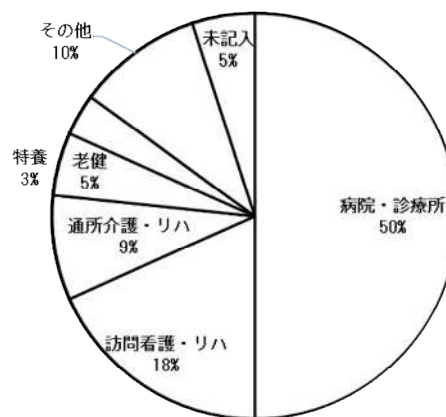
〔職種別〕 行政除く 職 種	人数（人）
理学療法士	37
作業療法士	13
言語聴覚士	5
ケアマネジャー	2
施設管理者	1
看護師	1
計	60



□ アンケート結果

問1 所属機関

	人数（人）
病院・診療所	30
訪問看護・リハ	11
通所介護・リハ	5
老健	3
特養	2
その他	6
計	60



問2 経験年数

	人数(人)	割合
1～5年	6	10%
6～10年	14	23%
11年以上	35	58%
未記入	5	8%

問3 今後の業務への活用度

	人数（人）	割合
活用できる	59	98%
未回答	1	2%

問4 北九州市しあわせ長寿プランの認知度、理解度

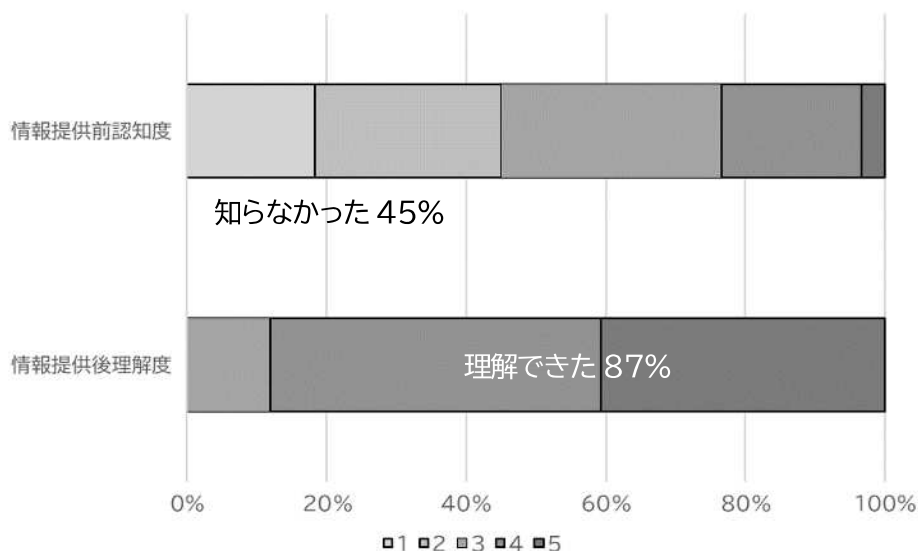
5段階評価 認知度1：知らなかった～5：知っていた

理解度1：理解できなかった～5：知っていた

(1) 北九州市の高齢者を取り巻く課題や施策の目標、方向性について

認知度	人数(人)	割合
1	11	18%
2	16	27%
3	19	32%
4	12	20%
5	2	3%

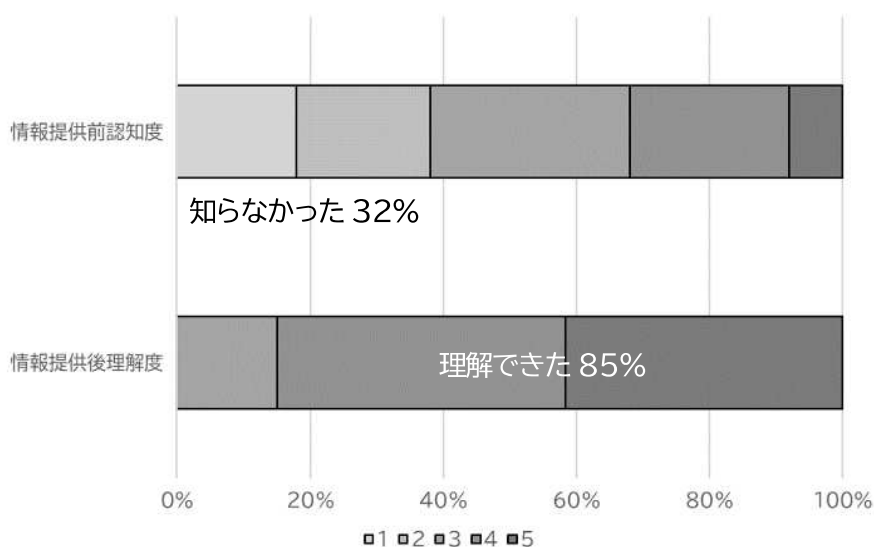
理解度	人数(人)	割合
1・2	0	0%
3	7	12%
4	28	47%
5	24	40%



(2) 支援者の関係機関・団体、行政に求められる役割について

認知度	人数(人)	割合
1	9	15%
2	10	17%
3	15	25%
4	12	20%
5	4	7%

理解度	人数(人)	割合
1・2	0	0%
3	9	15%
4	26	43%
5	25	42%



問5 他の参加者の勤務先の特徴や強みを聞いて、特に役立ちそうだった内容

《他業種の特徴》

- ・認知症の方の支援について（障害者通所事業所勤務 PT）
- ・障害を持った方などに選択の幅を増やせる。（診療所 PT）
- ・短時間のリハ特化型のデイサービス（病院 PT）

《課題》

- ・若い方が地域サロン等の活動に出られていない、積極的に参加していくことが必要（他2件）

令和6年度 リハビリテーション連絡協議会合同勉強会 ワークシートまとめ

1 講演で一番印象に残ったこと

《しあわせ長寿プランについて》

- ・ 「北九州市しあわせ長寿プラン」を知らなかったので知ることが出来て良かった。
- ・ しあわせ長寿プランの概要を知ることができた。自分が関わっている業務の位置付けを確認できた
- ・ しあわせ長寿プランを市が高齢者を含めた市民にどう周知し活動参加していくか、課題が多い。

《地域リハについて》

- ・ 地域リハ、地域連携に向けた取り組みが進んでいる事を知れた。普段の仕事、活動と連動したい。
- ・ 地域リハの位置付けに病院勤務のセラピストも含まれていること。
- ・ 地域リハ推進のために、地域の方だけでなくリハビリや介護、医療から積極的に発信する。

(その他多かった意見)

- ・ 高齢者のアンケートで地域に貢献したいと考えている方が60%程度いること (他5件)
- ・ 40~64才代の近所づきあいがほとんどない割合が26.5%あること。(他1件)
- ・ 北九州市の認知症の割合が7人に1人見られるという事。(他1件)

2 自分の業務とプランとの関係

(1)北九州市の高齢者を取り巻く課題や施策の目標、方向性について

《課題》

- ・ 少子高齢化。労働人口↓、マンパワー不足有り。働き手↓高齢者↑に対して対多数対応 (他3件)
- ・ 閉じこもっている方へのアプローチの方法。元気な方の活躍の場。

《目標・方向性》

- ・ 高齢の方が多いということは病気になった時、障害を持つ可能性が高いということ。1人でも多くの人の生活を支えるため意識して仕事をしていく。
- ・ 選択できる多彩なケア(ACP) (他4件)

(2)支援者の関係機関・団体、行政に求められる役割について

- ・ 様々な多職種連携を行っていくこと。・在宅の方等に向けての介入のため、リハ技術がフィジカルアセスメント等の技術を深めていくことが必要
- ・ 多職種連携。質の高いサービスの提供、事業所として成長し続ける。
- ・ 地域活動の一環として高齢者と子どもの交流を図る。地域にできるリハスタッフの環境づくり、組織づくり、世代交代。
- ・ 多職種連携に努め、切れ目ないケア支援を行う。ネットワーク作り、地域ケア会議。リハ協議など。
- ・ 回復期病院やデイケアと共通の目的やゴールを持てるよう日々連絡を取り合う必要がある

3 明日から何か取り組みそうなこと

- ・ ネットワーク構築 (他4件)
- ・ 本日の研修を伝達すること、介護予防やACPについて充実化を図り広める (他3件)
- ・ 今行っている活動の継続、後身育成

4 3の取組を継続し、3年後(しあわせ長寿プランから次の計画に移行する時期)の展望

- ・ 「住みやすい」「ここで生きたい」と思える町づくり。人や地域を「支えたい」と感じる人づくり
- ・ しあわせ長寿プランの取り組みに積極的に地域住民を巻き込むこと。
- ・ 地域リハ協力機関が増え、介護予防の取組、困りごとを相談出来る場が増えることで安心して、いきいきと過ごせる場となること、高齢者主体の活躍の場が設けられること。(他2件)